

広めよう ” 路上ガム取り清掃作戦”

むら・まちづくりのコーディネーター・NPO 法人環境まちづくりネット理事 工藤秀美

最近、町を歩いていると特に駅前や飲み屋街、繁華街でびっくりすることが多い。駅出入口、交差点、コンビニ前など、黒い点点としたもので路上が一面覆われていることには、” なに、これ！” と驚嘆する。歩きながら、噛み捨て・吐き捨てたガムの残骸である。新宿駅や池袋駅周辺においては、本当に目を見張る状況なのである。新宿駅前の通りすがりの御婦人にその状況を尋ねてみると、” ええ！これ、噛み捨て・吐き捨てられたガムなんですか。これみんなガムなんですか。汚い。許し難い。” と怒りと、あきれ顔でした。

こうした状況を反映してか、近年、各自治体では、紙屑や煙草の吸殻、空缶、チューインガム等のポイ捨てを禁止した略称「ポイ捨て禁止条例」を制定し、まち美化に力を入れている。しかし、皮肉にも、近年の健康に配慮した禁煙ブームの影響からか、煙草の禁煙区域が拡大するにつれて、さらに、路上を黒い斑点で汚す噛み捨て・吐き捨てられたガムがやたらに目につくようになって、まち美化どころか風紀が乱れ、街そのものが崩壊するのではないかと心配してしまうほどである。

幸いにして、市民側にもこうした傾向を打開する動きが出始めている。聞きなれない“ガム取り棒”を使っの、「NPO法人環境まちづくりネット」の路上ガム取り清掃活動である。

そのNPO活動は、新宿大通商店街に店を構える荻野社長が一人で”ガム取り”をはじめ、その後”新宿駅前の通りすがりの御婦人”など新宿区内の賛同者によって活動が展開されている。

荻野社長（榊オギノ）が筑波大学との協力のもと共同開発した“ガム取り 1 番”と、しゃがんで作業を行うのはシンドイことから、“ガム取り棒”を開発し、新宿区との連携のもとに歌舞伎町や新宿駅東口等でガム取り清掃を始めた。

このことがNHK総合テレビなどのマスコミに取り上げられるようになり、それにつれて、目黒区や品川区などで正式に採用しボランティア団体に貸与したりしてガム取り清掃への取組が行われるようになってきた。特に豊島区では、シルバー人材センターに委託してガムの除去清掃を始めたことである。更に東京都にあっても、産業労働局が平成 21 年度東京トライアル認定制度において、ガム取り棒とガム取り一番をガム取り清掃に優れた新商品であると認定し、これを受けて東京都交通局はこれを購入し地下鉄などにおいてガム取り清掃に使用するようになったと聞いている。また、品川区や目黒区、新宿区の一部の学校では、体験学習の一環として”路上ガム取り清掃”が行われている。

将来を担い手である子ども達へ、ガム取り清掃という実践的なモラル教育として展開されることは有意義なことである。さらに子ども達が、地域ぐるみのガム取りの担い手へとつ

ながっていくことを期待したい。

最後に、このような小さな市民活動を多くの市民、国民に知っていただきたい。そして、全国的な運動へと広めていくためにも、一部の心ある人達の活動の周知・理解を、マスコミ関係者からの広報支援を期待したい。私は心温まる地域づくりは、綺麗だけのハードのまちづくりでなく、地域みんなで創り上げていく、お互いを思いやる”地域の絆”であると信じている。

平成22年6月25日